

指摘されているJLAC10 及び臨床検査マスタの問題点について

1. 同一項目に複数のコードが設定可能な場合がある ⇒ 【例示1】
2. 結果識別コードに『共通』と『個別』があり、使い方に一貫性がない ⇒ 【例示2】
3. 測定法コードを決定できる手順が確立していない ⇒ 【例示3】
4. 材料や測定法は、要素に無駄な選択肢が多い ⇒ 【例示4】
5. 新規検査項目に対して新たなコードの発番に時間がかかりすぎる ⇒ 【例示5】
6. JLAC10に無い新規項目をオリジナルコードにすると標準化コードに戻せなくなる
7. ユーザー領域コード、運用コードの使用が許可されており、標準にならない
8. オリジナルコードと新規に決定されるコードの2種類のコードが用いられることになり、データの管理が困難になる
9. 臨床検査マスタには、JLAC10要素について、すべての組み合わせは存在しない
10. 分析物、識別、材料、測定法、結果の各コードの組み合わせ方法が無数にあるため、既存の検査にコードを割り当てるのが難しい
11. 識別コードに負荷時間区分や定性定量区分やウイルス種類など、種々雑多な概念が混在している
12. 負荷試験などで時間を定義されるが、定義(用意)されていない時間が必要な場合どのように表現するのか分からない
13. 生体（生理）検査への拡張が困難で、これらの領域への対応が不明確である
14. コード長（依頼：15桁、結果：17桁）が長すぎる
15. 知名度が低い
16. 検査項目名を決定するために、分析物コードだけで決定する項目と、識別コードが必須な項目が存在する

【例示1】 同一項目に複数のコードが設定可能な場合がある

尿中の糖の定性検査を例にすると、下表の 2 種類のコードが選択可能となる。(同じ項目でも複数の設定が可能)

JLAC10 (17桁コード)	分析物		材料		測定法		結果識別		
	コード	名称	コード	名称	コード	名称	コード	結果名	詳細
1A02000000190111	1A020	糖定性[尿]	001	尿 (含むその他)	901	化学発色法	11	判定	
1A99000000192054	1A990	尿一般物質定性半定量検査	001	尿 (含むその他)	920	その他	54	分析物固有結果コード	糖

・結果を結果 (固有) コードに振り分けている (2008 年 12 月に追加)

<尿一般の場合>

分析物コード	分析物名
1A005	尿量
1A006	色調[尿]
1A007	混濁[尿]
1A010	蛋白定性[尿]
1A015	蛋白定量[尿]
1A019	尿糖スクリーニング
1A020	糖定性[尿]
1A025	糖定量[尿]
1A030	比重[尿]
1A035	pH[尿]
1A040	ウロビリノーゲン定性[尿]
1A045	ウロビリノーゲン定量[尿]
1A050	ウロピリン定性[尿]
1A051	ウロピリン定量[尿]
1A055	ビリルビン定性[尿]
1A056	ビリルビン定量[尿]
1A060	ケトン体定性[尿]
1A065	アミラーゼ(試験紙)[尿]
1A070	シュウ酸塩(試験紙)[尿]
1A075	白血球検査(試験紙)[尿]
1A080	亜硝酸塩(試験紙)[尿]
1A085	食塩検査[尿]
1A100	潜血反応[尿]

分析物コード	結果コード (固有)	結果名
1A990	00	尿一般物質定性半定量検査
1A990	51	比重
1A990	52	p H
1A990	53	蛋白
1A990	54	糖
1A990	55	ウロビリノーゲン
1A990	56	ウロピリン
1A990	57	ビリルビン
1A990	58	ケトン体
1A990	59	潜血
1A990	60	細菌 (試験紙法)
1A990	61	食塩
1A990	62	白血球数 (試験紙法)
1A990	63	アルブミン

<血液一般検査の場合>

分析物コード	分析物名
2A010	白血球数
2A020	赤血球数
2A030	ヘモグロビン
2A040	ヘマトクリット
2A050	血小板数
2A060	平均赤血球容積
2A070	平均赤血球色素量
2A080	平均赤血球色素濃度

分析物コード	結果コード (固有)	結果名
2A990	00	末梢血液一般検査
2A990	51	赤血球数
2A990	52	白血球数
2A990	53	ヘモグロビン
2A990	54	ヘマトクリット
2A990	55	血小板数
2A990	56	M C V
2A990	57	M C H
2A990	58	M C H C

【例示 2】 結果識別コードに『共通』と『個別』があり、使い方に一貫性がない（結果識別コード体系が二層化）

01～49 の共通コードは、検査結果の値型を表現することが可能となっているが、分析物コードにより、詳細分類が必要となると、51～99 の固有コードが使用されるため、その情報が欠落する。

コード	結果識別名	例
01	定量値	mol, g, U, AU, PRU, %, mm ³ , cpm, U, IU, mm/hr, 比重, pH
02	構成比	面積比, 重量比, 組成比率, 成分間比率, %, ISU
03	時間	秒, sec
04	吸光度	OD値, EIA値
05	希釈倍率	倍, 力価
11	判定	判定
12	スコア	スコア, クラス, Gaffky号数
13	分布	分布
14	型	型, パターン判定
15	標準偏差指数	標準偏差指数(SDI), 偏差値型スコア
21	コントロール値	コントロール値, cut off値
26	単位時間総量	一日排泄量, 5時間総量
27	GFR換算値	GFR換算値

分析物コード	結果識別 (固有) コード	結果名
1A105	00	沈渣[尿]
1A105	51	赤血球(RBC)
1A105	52	白血球(WBC)
1A105	53	上皮細胞
1A105	54	扁平上皮細胞
1A105	55	移行上皮細胞
1A105	56	尿細管上皮細胞
1A105	57	細胞質内封入体細胞
1A105	58	卵円形脂肪体

【例示3】 測定法コードを決定できる手順が確立していない（測定法コードの設定が困難）

- ・ 分析物と測定法が独立している
- ・ 測定法別のデータ比較として使われる精度管理の分類よりも粒度が荒い

JLAC10 17桁コード	分析物		測定法		コード	測定法 (名称)
	コード	名称	コード	名称		
3D010000001926101	3D010	グルコース	261	電位差測定	01	ヘキソキナーゼ (HK) 法
3D010000002227101	3D010	グルコース	271	可視吸光光度法	02	グルコキナーゼ法
3D010000002227201	3D010	グルコース	272	紫外吸光光度法(UV法)	03	ブドウ糖脱水素酵素法
3D010000002299901	3D010	グルコース	999	その他	04	ブドウ糖酸化酵素 (GOD) 法 (汎用分析装置)
					11	ブドウ糖酸化酵素 (GOD) 電極法 (専用分析装置)
					1	ドライケミストリー (富士ドライケム)
					3	ドライケミストリー (ビトロス)
					5	ドライケミストリー (スポットケム)
					6	ドライケミストリー (スポットケム Dコンセプト)
					9	ドライケミストリー (その他)
					99	その他

<例> グルコースを対象として、JLAC10 で分類される測定法を抽出した場合

右表は、大阪府臨床検査技師会でデータ標準化のために使用されているグルコースの測定法の分類。

JLAC10 より細かい粒度で分類しているが、用語が異なるため、JLAC10 で測定法コードを選択するのが難しい。

血糖測定における測定法「ヘキソキナーゼ・UV法」に対して、JLAC10 測定法コードを設定した 590 施設のうち、128 施設で間違っ
たコードが設定されていたという報告がある。

(日本医師会総合政策研究機構ワーキングペーパー「臨床検査部門における特定健診基本健診項目の基準値の実態」(2009.5) より)

測定法名称	電位差測定 (261)	可視吸光光度法 (271)	紫外吸光光度法(UV法) (272)	その他 (999)
ブドウ糖 酸化酵素比色法	2	12	1	0
ブドウ糖 酸化酵素電極法	328	3	3	7
ヘキソキナーゼ UV法	62	61	462	5
ブドウ糖 脱水素酵素法	4	5	23	0
ドライケミストリー・その他	0	2	4	8

太字下線付き → 正しい測定法

【例示4】 材料や測定法は、要素に無駄な選択肢が多い

<尿の材料>

材料コード	材料名称
001	尿（含むその他）
002	自然排尿
003	新鮮尿
004	蓄尿
005	時間尿
006	早朝尿
007	負荷後尿
008	分杯尿
009	カテーテル採取尿
010	尿ろ紙
011	膀胱穿刺

<血清検査の測定方法>

測定法コード	測定法名称 1	測定法名称 2
021	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	競合法(固相法)
022	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	競合法(二抗体法)
023	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	IEMA法
024	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	homogeneous法
025	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	その他 - I
026	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	その他 - II
027	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	その他 - III
028	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	その他 - IV
029	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	その他 - V
030	エンザイムイムノアッセイ(EIA)	その他 - VI
070	その他のイムノアッセイ法	

【例示5】 新規検査項目に対して新たなコードの発番に時間がかかりすぎる（新規検査コード決定の遅延）

- ・ 新規検査に対応する JLAC10 がない場合、日本臨床検査医学会の検査項目コード委員会へ申請し、委員会での決議を経てからコードが決定されるが、コードの決定が遅いことが指摘されている
- ・ コードがない場合、オリジナルコードを作成・使用するが、そのコードは他施設との連携に用いることはできない
- ・ データベースではオリジナルコードと新規に決定されるコード、2種類のコードが用いられることになり、データの管理が困難になる